金剛寶戒寺便

令和五年九月一日発行　第一一四号
https://www.houkaiji.jp

檀信徒の皆様こんにちは。年々暑さが厳しくなっていく気もしますが、不思議なものでお盆が明ける十五日の早朝にはそれまでとは違う涼しさを感じました。

さて、八月六日に本堂並びに境内の大掃除を行いました。大掃除は私が住職になってから復活した行事なのですが、有難いことに毎年多くの方に布施行を行って頂いております。参加者様が少しずつ変わっていくのも自然なことで、来られなくなった方も全く気になさらないでください。今年初めて参加いただいた方もいらっしゃいます。皆さま本当に有難うございました。

お盆のお墓参りに来られた方は、以前までの庫裡が無くなり、新堂の建築が進んでいるのに驚かれたのではないでしょうか。お盆休み前までには主に基礎工事まで進んでいましたが、八月末時点では配管が設置され、池の成型も終わりました。少しずつではありますが確実に進んでいます。進捗状況はFacebookにも掲載していますので「金剛宝戒寺」で検索をしてみて下さい。

また、八月の金剛宝戒寺便りの裏面には現時点での寄付金と当山よりの出資金をご報告させて頂きました。多くの方にご理解ご協力を頂いておりますこと、重ねてお礼申し上げます。お寺からの出資金についても様々なご感想を頂いております。これは私の代だけでなく、先代、先々代から数十年にわたる蓄財を今回の記念事業の為に精一杯捻出させて頂いたものです。「人を雇えば楽だけれどもそれだけ出費が増える。お寺は修築にしても記念法要にしても出るときは金額が大きいので、大変だけれども出来ることはなるべく自分たちでして、辛抱するように」と先代の住職からは言われ続けてきました。もちろんそれらは皆さまからお預かりした、月参りやお盆、お彼岸、法事、葬儀などのお布施です。皆様がご先祖様をご供養することは、お寺の維持管理にもつながり、二重の功徳になりますことを感謝と共にお伝えさせて頂きます。

また、お盆参り中に「庫裡とは何ですか？」とのご質問を受けました。庫裡とはお寺の住職家族の住まい兼、寺務所になります。家族の住まいとなる為、個人所有とも思われがちですが、校長や知事の官舎がそうであるように、現職が代われば立ち退く施設であり、個人所有ではありません。そのことは子供たちにも常々伝えています。今回はその庫裡に合わせて法事や葬儀にも利用できる大座敷を併設し、法要会館として建設しております。

話は変わりますが、お盆参りの楽しみの一つは久しぶりに会う子供さんたちです。数年ぶり、十数年ぶりにお会いする方もいます。立派な学生さん、社会人となり、以前の様にお話するのにためらってしまうこともあるほどです。同時に自分が年を重ねてきたことも再認識させられます。

「祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響きあり。沙羅双樹の花の色、盛者必衰の理をあらはす。奢れる人も久しからず、ただ春の夜の夢のごとし。猛き者も遂には滅びぬ。ひとえに風の前の塵におなじ。」平家物語は作者が分からないのも一つの魅力です。有史以来、死なない人は居ません。十分に年を重ね年配者からお見送りが出来れば、こんなに幸いなことはありません。しかしながらそこには老若男女の区別がないのも現実です。今年の初盆参りでも思わず涙が出てきてしまったお家がありました。仏教徒として生老病死を如何に受け入れ、且つ「老いても美しく、病になっても積極的であり、惜しまれながら死んでいく。」そのように生きていきたいものです。

今年の夏は青年期にお世話になった、近所のおばさんがお亡くなりになり、人生の恩人が病に臥せてしまいました。ご冥福とご回復を心から祈念しています。

令和五年十月八日（日曜日）十四時より
本堂において　「法話の会」
令和五年十月十四日（土曜日）十三時より
棟上げ式（餅まきをします。）

お盆参りの一風景を詠ませて頂きました。

初盆に曾孫並べて丈比べ　　合掌